

平成30年度 農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)
事業実施主体 評価一覧

●地域資源活用対策及び人材活用対策(地域活性化対策)

【(1)活動計画策定】 2件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階						評価	評価コメント
				H28	H29	H30	R元	R2	R3		
沖縄	沖縄	本部町	本部町具志堅地区田園空間施設利活用推進協議会	●	●	● ■				A	「田空の駅ハーソー公園」を拠点として、本部町の地域資源を活用したイベントの開催等を通じ、地域活性化に取り組んだ。その成果として、交流人口、売上げ、雇用について目標達成となっている。 もとぶ田空ヤギ祭等イベントにより、ヤギのいる公園と認知されたこと、海洋博記念公園が近いという地の利を活用したことで、観光客の利用も増えていることもあり、今後の「田空の駅ハーソー公園」を拠点とした地域活性化の取組に期待ができる。
沖縄	沖縄	名護市	名護東海岸アグリプロジェクト		●	●	○	○	○ □	A	名護市二見以北10区の交流拠点施設である「わんさか大浦パーク」を軸に地元の農林水産物の特産品化、イベント等の集客施策を実施した。 目標については、雇用、売上げ、交流人口についてはおおむね達成となっており、特に雇用については高いレベルでの達成となっている。 特産品づくりが新聞記事に掲載されたり、 ^{カリー} 嘉例祭等のイベントの効果により「わんさか大浦パーク」の知名度も向上しているため、次年度以降の取組、成果に期待ができる。

(注1)「事業実施段階」の凡例： ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)
(注2)「評価」の区分： A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

●農福連携対策(農福連携普及啓発等推進対策事業を除く)

【福祉農園等支援・整備事業】 1件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階						評価	評価コメント
				H28	H29	H30	R元	R2	R3		
沖縄	沖縄	中城村	合同会社Nハウス		●	●	□			A	平成29年度にパイプハウス6棟を整備し、雨天時の作業が可能となったことにより、農産物の安定的な生産ができるようになった。 平成30年度は、収穫量、収益の更なる増加を目指し、先進地視察や農業技術の研修に取り組み、その成果として、売上げ目標は達成、就労・雇用の目標もおおむね達成となっている。 パイプハウスの利点を活用して、今後の取組に期待する。

(注1)「事業実施段階」の凡例： ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)
(注2)「評価」の区分： A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

【平成30年度農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)の評価概要】

- 地域資源活用対策及び人材活用対策（地域活性化対策）
今回は、平成28年度採択地区1地区、平成29年度採択地区1地区の合計2地区の評価を行い、両地区とも総合評価はAであった。
両地区とも、拠点施設を軸に、地域資源を活用したイベントを開催し地域の知名度向上に努め、地域の活性化に貢献しており、適切に事業が実施され着実に成果が現れていると言える。
- 農福連携対策（農福連携普及啓発等推進対策事業を除く）
今回は、平成29年度採択地区の評価を行い、総合評価はAであった。平成29年度に整備したパイプハウスの農産物の安定生産の効果を発揮するための取組を行っており、適切に事業が実施され着実に成果が現れていると言える。

【令和元年度評価委員会の議事概要】

【評価委員会】

1. 日 時 令和元年7月24日（水）10時00分～12時00分
2. 場 所 沖縄総合事務局 会議室
3. 出席者
 - ・評価委員会委員 3名 （五十音順）
有木 真理 リクルートライフスタイル沖縄社長
幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長
杉村 泰彦（委員長） 琉球大学農学部准教授
 - ・評価委員会事務局 沖縄総合事務局 3名
4. 議事概要
 - 1) 農山漁村振興交付金の評価について
 - ・地域資源活用対策及び人材活用対策（地域活性化対策）の各実施団体の評価内容（案）について、委員からの意見聴取を行った。
 - ・農福連携対策（農福連携普及啓発等推進対策事業を除く）の各実施団体の評価内容（案）について、委員からの意見聴取を行った。
 - 2) 農山漁村振興交付金の評価結果（案）の取りまとめ
 - ・上記1)の結果を踏まえ、地域資源活用対策及び人材活用対策（地域活性化対策）について、公表用評価コメントを様式に取りまとめた。
 - ・上記1)の結果を踏まえ、農福連携対策（農福連携普及啓発等推進対策事業を除く）について、公表用評価コメントを様式に取りまとめた。
5. 評価委員会委員の主な意見
 - ① 本部町具志堅地区田園空間施設利活用推進協議会
地域資源を活用したイベントがメディアに掲載され、地域の認知度が向上し、観光客を呼び込むことができている。本事業の効果を十分に発揮しており、今後の活動にも期待ができる。
 - ② 名護東海岸アグリプロジェクト
名護市二見以北10区の交流施設を拠点に、認知度向上や特産品開発の取組を行っている。雇用の目標については高いレベルで達成できているなど、本事業の効果は発揮されており、次年度以降の取組にも期待ができる。
 - ③ 合同会社Nハウス
前年度事業で整備したパイプハウスを活用した、収穫量等の増加の取組を行い、販売額等一定程度の成果が出ている。今後も、障害者の労働環境の改善のモデルケースとなることを期待する。